

教員氏名：新井 祥文（保育学科／准教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

保育学科に所属し、保育士資格で重要になる保育の基礎を扱う授業や、保育実習指導Ⅱをオムニバスで担当している。現在、幼保連携型認定こども園後閑あさひ保育園の園長、群馬県保育協議会の予算対策委員長を務め最新の群馬県の保育状況を把握している。

現在の主な担当科目一覧		
育英短期大学	保育学科	保育原理・教育課程論・教職実践演習など

2. 教育の理念（なぜやっているか）

自らの教育理念の根幹は社会福祉学である。そもそも保育学とは、社会福祉学と教育学を横断的にとらえる学問だと考えている。特に児童福祉から子ども家庭福祉へ、ウェルフェアからウェルビーイングへと福祉の考え方の根底が時代と共に変わる中で、すべての人が個別の幸福を追求できるような福祉政策や実践が問われてきた。子ども分野についても同じで、戦後は一斉保育中心の活動内容が中心であったが、今は子ども主体の保育が必要とされ、昔ながらの保育観からの脱却が求められている。そのような保育の時代の流れを意識しながら、変革していく子ども家庭福祉学・保育学を研究テーマとしていく。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

学習成果の達成を目指し、以下の工夫をしている。

- ① 講義系授業では、すべての講義でパワーポイントを使用し、資料は大事なスライド箇所をプリントして配布している。書く時間が長いと集中が続かなくなる事も考え、あまり記述が増えないような進め方をしている。
また、グーグルクラスルームを活用して、紙媒体のほかデータ配信をする事で効率的な学習効果を期待している。
- ② 講義の中に現場の映像を必ず加え、テキストに記載されている内容をより具体的に学習できるような工夫をしている。また、場合によっては ZOOM を活用し、園とリアルタイムでつながることで、作られていないリアルな保育現場を素材として使用している。
- ③ 定期的に振り返りシートを記載し、個別の学習到達度や学習意識を確認しながら講義を進めている。また、フォームを活用し質問コーナーを設ける事で、個々の質問等を吸い

上げる事で学習意欲の向上を図っている。

- ④ ミニテストを実行する事で、個々の習熟度などをチェックするようにしている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

座学の為、振り返りシートと、制度上理解しておかなければならない事（5領域など）をミニテストで確認している。仮に用語の理解が及ばなくても、本質的な保育の考え方を捉えている場合には加点している。

ややもすると試験の為の講義になりがちなのであるが、それらが苦手な学生もいる為、現場に出た時に苦労しないような子どもへの関りや、保育士の仕事への向き合い方を理解できるように講義することで、時代に合った保育観を醸成されている。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

令和5年度より子ども家庭庁が発足し、こどもまんなか社会の実現に動き出した一方で、出生数は国の予測を大きく下回り出生数80万人割れは予測の8年前倒しの状況である。群馬県の少子化と人口減少の進行も厳しい状況にあり、人口増加エリアでは待機児童問題・その他の地域では定員割れによる閉園の危機がある事が実態として表れている。一方、保育士の業務の改善はメディア等で大きく取り上げられており、保育現場に於ける保育士の労働環境の改善は急務となっている。

このような状況の中で、保育者養成に必要な力は、保育者としての専門技術をベースに、最新の制度理解と子ども達への良質な関わり（保護者対応含む）等の実践力に他ならない。保育者の離職の上位に、職場の人間関係や保護者対応があがっており、せっかく夢を目指して保育者になっても、まわりにつぶされてしまうのは大変残念な事である。これらを防止するには、学生の時にそのような状況を想定したような指導も必要になってきていると考えている。

制度論は変化が激しく、その都度押さえておく必要がある。国の動向に触れながら、群馬で実践していく保育を伝えていきたいと考えている。

（2024年8月30日現在）